



## 目次

◆ブロックからのお知らせ..... 1	情報をお知らせください..... 4
■九州・沖縄ブロック運営協議会 2019 定例会議 報告..... 1	■★会員室電話受付時間変更のお知らせ★..... 5
■2019 年度日本野鳥の会近畿ブロック会議 報告..... 2	■会員数..... 5
◆事務局からのお知らせなど..... 4	
■風力発電対策のためにガン・ハクチョウ類の渡り	

## ◆ブロックからのお知らせ

### ■九州・沖縄ブロック運営協議会 2019 定例会議 報告

【日時】：2019年2月2日（土）13：00～17：00  
 【場所】：みんくる 6F 会議室 I（福岡県久留米市六ツ門町）  
 【担当支部】：日本野鳥の会筑後支部  
 【参加者】：10 支部（福岡支部 2 名、筑後支部 2 名、筑豊支部 2 名、北九州支部 1 名、佐賀県支部 1 名、熊本県支部 1 名、大分県支部 2 名、宮崎県支部 1 名、鹿児島 1 名、西表支部 1 名）、財団 4 名（上原常務理事、自然保護室／葉山、普及室／箱田・嶋村）、合計 18 名

#### 【スケジュール】

- (1) 財団からの連絡・報告事項
  - ①五島沖洋上風力の動き
  - ②2019 年度入会キャンペーンと支部卸について
  - ③リスクマネジメント研修について
- (2) 各支部からの活動報告
- (3) ベニアジサシとブッポウソウの繁殖状況について（筑後支部）

#### 【議事】

- (1) 財団からの連絡・報告事項
  - ①五島沖洋上風力の動き  
 長崎県五島市の洋上風力計画の環境影響評価が終わり工事に入る段階であるが、アセス実施後、近隣の海域でカツオドリが増えており、問題があるのではと地元から声があがり、環境省が間に入り、地元の団体、長崎県支部、財団で申し入れたところ、追加調査がされることになったと報告された。なお、ハチクマ、カツオドリ、カンムリウミスズメの追加調査が計画されている。その結果を見て、今後の計画を検討することが共有された。また北九州から長崎県にかけての日本海側は風がよく、洋上風力の計画が出てくると考えられるので、情報や懸念されることがあれば寄せてほしいと

呼びかけられた。

②2019 年入会キャンペーンと支部卸について  
 新規で入会された方にカレンダーをプレゼントしているキャンペーンについて共有された。キャンペーンを実施した昨年 4～12 月の入会が増加したことが報告され、入会案内の際に活用してほしいと呼びかけられた。また、支部卸の活用についても呼びかけられた。

③リスクマネジメント研修について  
 初心者向けバードウォッチングの普及とともに、野外活動に不慣れな方が探鳥会に参加する機会が増え、探鳥会のリスクマネジメントに一層気を付ける必要があること、また、リスクマネジメントに関してよく聞かれる誤解が紹介され、財団から講師を派遣するので、研修会を企画してほしい旨が述べられた。

#### (2) 各支部からの活動報告

①宮崎県支部  
 記念事業として、創立 50 周年記念誌を制作したことが報告された。2018 年 12 月には宮崎神宮で実施している定例探鳥会が開催 500 回を迎え、500 回記念誌も 2019 年 3 月に発行する。探鳥会では入会の呼びかけを積極的に行い、お試し入会の効果もあり、会員が少し増えていることが報告され、今後も取り組みを続けていきたいと述べられた。また、宮崎県内でナベツルの幼鳥が確認されていることから、財団からツル類の越冬状況のアンケートへの協力が呼びかけられた。

②筑豊支部  
 探鳥会の参加者が、前年比で 3 割増となっていることが報告された。自然観察会も実施しており、女性や初心者の方が参加しやすいように草花を中心とした解説をし、リーダーも女性にしている。草花を入口にして野鳥にも興味を持ってもらい、その後探鳥会への参加にも繋がっている。自然観察会やお試し入会の効果もあり、会員は前年より増えていると報告された。そのほか、珍鳥の出現は HP にすぐに掲載せず、情報の扱いに配慮していることが共有された。

### ③福岡支部

探鳥会の実施状況、小学校等への出前探鳥会、植物園との共催の探鳥会や写真展も実施していることが報告された。また、玄界灘での船上海鳥調査も実施している。環境保護問題については、支部長を中心に県や市の委員会に出席し、野鳥保護の面で意見を述べていることが報告された。

### ④北九州支部

北九州空港跡地が公園整備され、野鳥観察施設やピオトープが作られる予定であることが報告された。支部から提言し、シギ・チドリ等の休息場所として利用されるよう検討されている。また、曾根干潟での風力発電計画が持ち上がっているが、詳細はまだわからない状態であること、計画が明らかになり環境への影響があると判断した場合は、計画への意見を提出する予定である。その際は、財団や支部にも協力を求めることが共有された。曾根干潟の大切さを地元の人にも伝えるため、写真展の開催や、曾根東小学校との探鳥会やクリーン作戦も行っている。

響灘では風力発電の建設が進んでおり、大型のものでもできる予定であることが共有された。響灘ピオトープ内で繁殖しているチュウヒがおり、冬場のエサ資源としてピオトープの外も重要と考えられ、北九州市にピオトープ外の保全の必要性等の意見を提出している。また、洋上風力の準備書ができる予定なので、意見書提出を検討していると説明された。

### ⑤大分県支部

定例探鳥会のほか、夜の鳴き声を聞く探鳥会や、調査を兼ねたツバメのねぐら入り観察会を実施していることが報告された。また、撮影のために餌付けや仕掛け設置の事例が確認されており、バードウォッチング初心者の方に影響を与えてしまうことが懸念されている。支部としてマナーづくりをし、マナーの悪い人や初心者に普及することを検討していると説明がされた。

### ⑥熊本県支部

年約 60 回の探鳥会を実施しており、年間 1,300 人の参加者があったこと、市街地や中心地では参加者が増え、初心者向け探鳥会は 70 名以上が集まり、その場に入会される方もいる。一方、郊外の探鳥会は参加者が 10 名以下のこともあることが報告された。また、県内ではクロツラヘラサギが増えており、内陸に進出している傾向があることが報告された。2019 年は 50 周年記念事業として、森林総研の川上和人さんによる講演、副支部長によるヤマドリ等の講演実施、また、支部報内では支部の歴史や過去のことを振り返る記事も掲載予定であると説明された。

### ⑦佐賀県支部

昨年 HP を立ち上げ、HP を通して入会希望される方もおり、HP の効果を感じていると報告された。また、日本野鳥の会茨城県や財団の取り組みもあり、白石干拓の蓮田防鳥ネットについて役場と農協に訪問し意見を述べたこと、それにより、ほとんどの蓮田で対策が行われたことが報告された。また、東よか干潟で実施された初心者向け探鳥会は集客が難しく、今後初心者対象のものは市街地の公園での実施を検討していると

報告された。

### ⑧鹿児島県支部

ブッポウソウの繁殖が確認され、幼鳥 10 羽の巣立ちが観察されたこと、少なくとも 2 つがいの繁殖が確認されたことが報告された。また、出水平野の南にある紫尾山系に風力発電の計画があり、ツルの分散にも影響があると考えられ、意見書を出していることが報告された。

### ⑨西表支部

自然観察兼探鳥会を年 10 回ほど実施しているが、島在住の会員は 3 名ほどで、それ以外は島外の方であることが報告された。観察会を増やすなどして、島内の会員も増やしたいと述べられた。

#### (3) ベニアジサシとブッポウソウの繁殖状況について(筑後支部)

矢部村のブッポウソウの保護活動について、2018 年度には 3 羽が飛来し、1 つがいから 1 羽が巣立ったことが報告された。昨年はカメラマンなどのマナーを守らない人の行動が目立ち、対策として八女市と連名で看板設置をしたこと、PR や活動資金を得るために絵はがきや缶バッジの販売を行ったことが報告された。有明海のベニアジサシは飛来を確認しているが、ハヤブサがいることから 4 年連続で繁殖をしなかったことが報告された。志布志湾のベニアジサシは営巣の確認があったが、天候や環境の変化の影響でいなくなってしまうと報告された。また、ブッポウソウやベニアジサシについて、情報提供が呼びかけられた。

(普及室/嶋村早樹)

## ■2019 年度日本野鳥の会近畿ブロック会議 報告

【日時】：2019 年 6 月 29 日(土)～30 日(日)

【場所】：芦生山の家(京都府南丹市)

【担当支部】：日本野鳥の会京都支部

【参加者】：6 支部 25 名(和歌山県支部 4 名、大阪支部 4 名、滋賀 3 名、ひょうご 3 名、奈良支部 4 名、京都支部 7 名)、財団 4 名(遠藤理事長、自然保護室/山本、普及室/江面・嶋村)、合計 29 名

【概要】：ブロック会議は、年に一度、各支部の代表者が集まる貴重な機会ということで 2 つのテーマを決め、「話し合う会議」が企画された。一日目の会議の時間には、テーマに基づき、それぞれの支部から事例や意見交換が行われた。2 日目には、貴重な動植物の生息地でもある、京都大学芦生研究林を散策した。

【プログラム】

1 日目/6 月 29 日(土) 14～17 時 会議

1. 開会の挨拶：

日本野鳥の会京都支部・船瀬支部長より、「今回の会議ではテーマを決めて議論をすることにした。各支部から事例や意見を出し合い、有意義な場としたい」と

のあいさつがあった。

## 2. 財団からの連絡：

### (1)近況報告（遠藤理事長）

6月の評議員会で評議員のメンバーが大きく変わり、新会長に上田恵介氏が、名誉会長に柳生博前会長が就任し、支部選出の評議員3名が交替したこと等が報告された。また、3月に二本松支部が、5月に函館支部が解散して支部数が87になったこと、支部の運営に関する相談は上原常務理事が窓口になるので、気軽に相談してほしいとの連絡があった。

### (2)リスクマネジメント研修について（普及室・江面）

初心者向けバードウォッチングの拡大とともに、野外活動に不慣れな方が探鳥会に参加する機会が増え、探鳥会のリスクマネジメントに一層配慮する必要があること、財団から講師を派遣するので、研修会を企画してほしいと述べられた。

### (3)入会促進キャンペーンの紹介（普及室・嶋村）

「現在、新規入会された方に対し、来年のカレンダーをプレゼントするキャンペーンを実施している。キャンペーンを始めてから入会者が増えたという効果もあったので、入会の勧誘に活用してほしい」との連絡があった。

### (4)支部卸販売の紹介（普及室・嶋村）

「探鳥会で販売をしてみたい」「会員向けに財団の通販の注文を取りまとめるサービスを実施したい」という問い合わせを全国の支部から受けるが、紹介できる事例がない。事例をお持ちの支部は、ぜひお知らせいただきたい」との連絡があった。

## 3. 議事：

### (1)野鳥との適切な距離の取り方について

「繁殖時期における探鳥会運営」を主なテーマとして事例発表と意見交換を行った。

はじめに、京都支部より、京都御苑でのアオバズク観察会についての事例発表があった。長年実施してきた人気の探鳥会であり、さまざまな対策を実施してきたが、アオバズクの繁殖への悪影響が避けられないことから、今年は中止するに至り、その経緯が報告された。

それに対して、各支部からの事例や意見が述べられた。珍しい鳥が出現してカメラマンが集まる場所に看板を設置してマナーを呼びかけたところ、マナー違反のカメラマンに声を掛けやすくなったこと、探鳥会の場はマナーの啓発の場として重要である、などの意見や事例があげられた。

また、近年、探鳥会の参加者が増加傾向にあり、鳥にも人にも負担をかける懸念があるとの意見が京都支部より上がった。それに対して、滋賀より、人気の探鳥会を会員限定・予約制にしたところ、適正な人数で満足度も高い会となったとの事例紹介があった。

最後に、鳥にストレスを与えるような探鳥地の情報を近畿ブロック内で共有し、近県に遠征して探鳥会をする計画があれば、配慮すべき点について、あらかじめ地元支部に情報提供を求めることが合意された。

### (2)メガソーラー、風力発電における自然環境保護の問題について

はじめに、ひょうごより「新温泉町での風力発電に

ついて」の報告があった。兵庫県新温泉町で、大規模な風力発電施設の建設計画があり、昨年よりひょうごでは、他の団体とも協力して、現地調査を行っている。その結果、希少種22種を確認し、さらに、クマタカ、サシバ、ハチクマの繁殖を確認した。クマタカの飛行航路の調査からも、風車が野鳥に与える影響は大きいと考えられ、取り付け道路の開発による、周囲の生態系の破壊も心配される。ひょうごでは、調査結果を報告書にまとめ、要望書とともに町、県、環境省に提出した。さらに、地域住民向けに計画地の野鳥の生息状況についての勉強会も開催している。今年も調査を継続して、より風車の野鳥への影響を詳細に把握していく予定との報告だった。

それに対して、各支部からの事例や意見が述べられた。

滋賀では、昨年8月、あらたに最大50基の風車建設計画がもちあがった。支部としては、県に対して、渡り鳥の移動やイヌワシのバードストライクに十分配慮するよう要望書を提出し、事業者との意見交換会に出席するなどの対応を行っていることが述べられた。

和歌山県支部からは、環境省と県が洋上風力発電の開発に関するゾーニングを進めているなか、あらたな洋上風力発電の計画が持ち上がったことが報告され、洋上だけではなく陸上のゾーニングもすすめて、「このエリアは自然保護の観点から風車建設は望ましくない」と事前に伝えられるようになればよいとの意見が述べられた。

その他の意見として、日頃から県など行政と情報交換をしておくことが大切であること、建設後の発電施設のメンテナンスや開発事業者の倒産後の対応なども地元住民にとっては重要な懸念材料であることなどの意見が述べられた。

さらに、建設の前に、風力発電やメガソーラーの建設後にどのような問題が発生するのかわかっているか、反対意見がもっと言いやすくなるのではないかと。また、施設の見学に行くのもよいのではとの意見もあった。

※終了後、夜間観察会、懇親会

### 2日目／6月30日(日) 8～12時半 探鳥会

芦生もりびと協会 鈴木氏のガイドで、京都大学芦生研究林を散策した。



▲会議であいさつをする船瀬京都支部長（右）と司会



▲京都大学芦生研究林での散策の様子

(普及室/江面康子)

## ◆事務局からのお知らせなど

### ■自然保護室より

#### ■風力発電対策のためにガン・ハクチョウ類の渡り情報をお知らせください

当会は風力発電施設建設による鳥類への影響がなるべく生じない世界を目指し、新潟大学が行っている「風車への衝突リスク低減を目指したガン・ハクチョウ類のセンシティブティマップ作成」事業に協力しています。そのため連携団体の皆様には、過去の記録でも構いませんので、春や秋の渡りの時期に観察したガン・ハクチョウ類の情報を提供いただけますようお願い申し上げます。

※センシティブティマップ…鳥類にとって重要な生息地や風力発電施設の建設により影響を受ける鳥類の生息地が示された地図。

※ガン・ハクチョウ類と風力発電…ガン・ハクチョウ類の渡り経路に風力発電があると、それを避けて飛ぶことで渡り経路が変化する障壁影響が発生することが知られています。また、風力発電の近くを飛んでしまった場合には、器用に飛翔できないことから風車を避けきれずバードストライクが発生することも知られています。

#### 【目的】

- 日本国内にあるガン・ハクチョウ類の渡りルート等を明らかにしたセンシティブティマップを作成する。
- マップを普及し、活用されることで、ガン・ハクチョウ類が影響を受ける可能性がある渡りルート等での風力発電の建設を避ける。



上図のように、皆様にいただいた情報を集約することで、ガン・ハクチョウ類の渡り経路が見えてきます。

#### 【ガン・ハクチョウ類の渡りを目撃・発見したら】

- ①見つけて渡り鳥 (<http://www.torimikke.net/>)へアクセス、
- ②トップページ右上の「ログイン」ボタンをクリック、
- ③メールアドレス：goose-swan@wbsj.org/パスワード：1410031 を記入し、
- ④ログインをクリックし、
  - 目撃・発見した位置（地図に記入）
  - 目撃・発見した年月日
  - 種名
  - 備考欄に飛行高度やその他特筆事項 をご記入願います。

※野帳に眠っている情報、過去の記憶でもよいです！



地図に記入する情報のイメージです。

#### 【担当者・連絡先】

- 担当者：自然保護室 主任研究員 浦 達也
  - 連絡先：ura@wbsj.org
- ※ご不明な点があれば、遠慮なくご連絡ください。

(自然保護室/浦達也)

### ■会員室より

## ■★会員室電話受付時間変更のお知らせ★

これまで 9:30～17:30 でした会員室の電話(03-5436-2631)の受付時間につきまして、2019年11月1日より10:00～17:00(土日祝除く)といたします。

メール(gyomu@wbsj.org)、ホームページで会員変更などの受付をしておりますので、ご活用ください。

支部報などに受付時間を記載している場合には変更をお願いできればと思います。

(会員室/清野祐貴)

## ■会員数

8月1日の会員数は34,409人で、先月と比べ56人減少しました。

7月の入会・退会者数の表をみますと、入会者数は退会者数より56人少なくなっています。

会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

7月の入会者数は175人で、前年同月の入会者数141人と比べ34人増加しました。

また、7月の退会者数は231人で、前年同月の退会者数219人と比べ12人増加しました。

表1. 7月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	11 人	11 人
総合会員(おおぞら会員)	28 人	83 人
本部型会員(青い鳥会員)	52 人	43 人
支部型会員(赤い鳥会員)	47 人	51 人
家族会員	37 人	43 人
合計	175 人	231 人
年度累計	689 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

## ■都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数(8月1日現在)

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,655 人	-10 人
青森県	246 人	1 人
岩手県	367 人	0 人
宮城県	484 人	4 人
秋田県	247 人	0 人
山形県	216 人	-2 人
福島県	596 人	-4 人

茨城県	887 人	-5 人
栃木県	682 人	11 人
群馬県	610 人	1 人
埼玉県	2,094 人	-14 人
千葉県	1,568 人	-2 人
東京都	4,768 人	3 人
神奈川県	3,290 人	-4 人
新潟県	364 人	-2 人
富山県	200 人	1 人
石川県	273 人	-1 人
福井県	222 人	2 人
山梨県	263 人	1 人
長野県	847 人	-4 人
岐阜県	461 人	0 人
静岡県	1,302 人	1 人
愛知県	1,487 人	-7 人
三重県	428 人	-1 人
滋賀県	291 人	-1 人
京都府	813 人	-1 人
大阪府	1,974 人	-14 人
兵庫県	1,280 人	2 人
奈良県	503 人	0 人
和歌山県	192 人	0 人
鳥取県	189 人	3 人
島根県	170 人	-2 人
岡山県	547 人	4 人
広島県	563 人	3 人
山口県	364 人	0 人
徳島県	311 人	1 人
香川県	186 人	1 人
愛媛県	354 人	-3 人
高知県	125 人	-2 人
福岡県	1,281 人	-1 人
佐賀県	194 人	0 人
長崎県	207 人	-3 人
熊本県	393 人	-2 人
大分県	218 人	-2 人
宮崎県	246 人	-3 人
鹿児島県	310 人	-1 人
沖縄県	105 人	-1 人
海外	11 人	0 人
不明	25 人	-3 人
全国	34,409 人	-56 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数(8月1日現在)

支部	会員数	対前月差
オホーツク支部	250 人	0 人
根室支部	80 人	-1 人

釧路支部	153 人	-2 人
十勝支部	174 人	0 人
旭川支部	82 人	0 人
滝川支部	46 人	0 人
道北支部	27 人	0 人
江別支部	19 人	0 人
札幌支部	300 人	-2 人
小樽支部	64 人	0 人
苫小牧支部	160 人	0 人
室蘭支部	143 人	-4 人
道南檜山	62 人	2 人
青森県支部	129 人	-1 人
弘前支部	111 人	2 人
秋田県支部	236 人	1 人
山形県支部	201 人	-1 人
宮古支部	87 人	0 人
もりおか	160 人	1 人
北上支部	100 人	-2 人
宮城県支部	456 人	5 人
ふくしま	154 人	-1 人
郡山支部	154 人	-2 人
白河支部	39 人	-1 人
会津支部	54 人	0 人
奥会津連合	7 人	0 人
いわき支部	110 人	0 人
福島県相双支部	17 人	0 人
南相馬	14 人	0 人
茨城県	788 人	-2 人
栃木県支部	670 人	12 人
群馬	524 人	2 人
吾妻	41 人	0 人
埼玉	1,584 人	-10 人
千葉県	985 人	-7 人
東京	2,711 人	-1 人
奥多摩支部	801 人	-7 人
神奈川支部	2,248 人	-6 人
新潟県	271 人	-1 人
佐渡支部	33 人	-1 人
富山	181 人	0 人
石川	253 人	-3 人
福井県	215 人	2 人
長野支部	444 人	-4 人
軽井沢支部	167 人	1 人
諏訪支部	225 人	-5 人
木曾支部	23 人	0 人
伊那谷支部	77 人	-1 人
甲府支部	181 人	-1 人
富士山麓支部	59 人	1 人
東富士	61 人	3 人
沼津支部	157 人	1 人

南富士支部	251 人	2 人
南伊豆	40 人	2 人
静岡支部	336 人	0 人
遠江	397 人	2 人
愛知県支部	1,104 人	-4 人
岐阜	450 人	-2 人
三重	357 人	-3 人
奈良支部	452 人	-1 人
和歌山県支部	196 人	1 人
滋賀	291 人	-3 人
京都支部	770 人	0 人
大阪支部	1,851 人	-18 人
ひょうご	971 人	-3 人
鳥取県支部	205 人	0 人
島根県支部	160 人	-2 人
岡山県支部	512 人	1 人
広島県支部	484 人	4 人
山口県支部	332 人	0 人
香川県支部	145 人	0 人
徳島県支部	328 人	1 人
高知支部	111 人	-2 人
愛媛	327 人	-2 人
北九州支部	292 人	-2 人
福岡支部	544 人	0 人
筑豊支部	243 人	-3 人
筑後支部	160 人	2 人
佐賀県支部	234 人	1 人
長崎県支部	193 人	-2 人
熊本県支部	386 人	-2 人
大分県支部	212 人	-1 人
宮崎県支部	242 人	-3 人
鹿児島	285 人	0 人
やんばる支部	69 人	0 人
石垣島支部	16 人	0 人
西表支部	44 人	0 人
29,278 人		-70 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（会員室／厚目葉子）

★支部ネット担当より

皆さまいかがお過ごしでしょうか。いつも支部ネット通信をご愛読いただき、ありがとうございます。

今月号では、自然保護室が、風力発電対策のためのガン・ハクチョウ類の渡り情報の提供を求めています。Webにてご協力をお願いいたします。

全国的に不安定な気候と残暑が続いています。野外活動の際には、熱中症などにも充分ご注意ください。

■支部ネット通信は支部の代表の方に電子メールでも配信をしています。電子メールでの配信を希望される支部の代表の方は下記メールアドレスまでお気軽にお申し込みください。

---

日本野鳥の会

## 支部ネット通信

第 185 号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2019 年 8 月 29 日

◆担当

総務室 総務グループ

五十嵐真/林山雅子/浦野菜穂子

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org

---